

自ら考え，課題解決に取り組み，学ぶ楽しさを味わえる子供の育成

～算数科の指導を通して～

足利市立小俣小学校

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由

(1) 本校の教育目標とこれまでの研究実践から

本校では，教育目標である「自ら学ぶ意欲・自ら考え創造する力を育み，知・徳・体の調和のとれた人間教育に努める。」のもと，「学ぶ楽しさや喜びを感じ，確かな学力を身に付ける子供の育成」を学校課題として設定している。その学校課題解決のために「学び合いを育てる学級経営」を基盤として，一人一人の実態に即した「学び方支援」（特別支援教育）に基づき，基礎的な知識・技能の習得とともに「楽しく学ぶ子」の育成を目指している。現在，算数科・国語科の授業の充実，および学び方支援教育の推進を最重点項目として教育活動を続けているところである。

その中で，児童の実態に即した支援のあり方を考え，指導方法・学習形態・指導体制の工夫改善を図り，個に応じた学習を進めていくことが有効であることを確認してきた。

算数科では，平成14年度よりチームティーチングとコース別学習による少人数指導の授業に取り組んでいる。今年度も，1～3年生では1クラスに複数の指導者が入るチームティーチング，4～6年生では学年を複数のコースに分けるコース別学習を実施している。

少人数指導では，児童一人一人の理解に応じたきめ細かな指導が可能になり，基礎的・基本的な内容を児童に定着させる上での成果が見られた。これまでは，どちらかというところ，児童が「分かる・できる」ようになることに重点をおいてきた。

ただ，一人一人が自分の考えをもって，考えを練り合う学び合いの学習は十分ではなかった。学習内容や技能面での習熟において効果的であっても，どちらかというところ児童にとっては受け身の学習になる傾向があったといえる。

これまでの実践をふまえ，主体的に考え課題解決していこうとする態度を育てていく必要があると考えた。

(2) 新学習指導要領で求められる算数科教育から

新学習指導要領が告示され，算数科においては，内容をスパイラル（反復）させて確かな学力を身に付けさせるとともに，思考力・判断力・表現力の育成が一層重視されることとなった。

例えば，5年生では「三角形の三つの角の大きさの和が 180° になることを帰納的に考え，説明する活動。四角形の四つの角の大きさの和が 360° になることを演繹的に考え，説明する活動。」といった記述がある。

算数的活動等を通して，具体物や言葉，数，式，図などを用いて考え，説明する活動が位置付けられている。それは，自分の考えをもって説明したり友達の説明を聞いたり

しながら、主体的に課題解決を図る学習であるといえる。

本研究主題の具現化を図っていくことが新学習指導要領の主旨につながるものと考え
る。

(3) 児童の実態から

本校の児童は、明るく素直であり、指示されることにはしっかり取り組む傾向がある。
児童全体を見渡すと、個人差は見られるものの、少人数指導による学習や習熟プリント、
朝学習等を通して、計算する力がついてきており、計算を好む児童も増えている。

その反面、課題に自分から取りかかろうとしないで考えをもたない児童、今まで学習
したことを生かそうとしないでいきなり立式する児童、自分の考えを表現できないなど
の児童が少なからず見られる。アンケート（平成20年6月実施）の結果を見ると、「テ
ストでよい点をとったとき」や「まるをもらえたとき」にほとんどの児童は楽しいと感
じている。しかし、「考えを絵や図にするとき」「友達の考え・発表を聞くとき」「発表
するとき」に楽しいと感じる児童は少ない傾向にあり、改善に向けた取り組みが求めら
れる。

一方、教師は、「関心・意欲を高め、自分なりの考えをもたせたい。」「既習事項を活
用するなどして自分で解決できるようになってほしい。」「解き方や考えなどを自分の
言葉で話したり説明したりできるようになってほしい。」「友達の考えを聞いたり話し
合ったりしながら共に学び課題解決していく力を育てたい。」と考えている。

(1)、(2)、(3)を受けて、児童が主体的に学び、その楽しさを味わうことがで
きるように、自分の考えをもち、考えを練り合う学び合いのある算数科の授業に焦点を
絞り、その具現化に取り組むこととした。

2 めざす児童像と「学ぶ楽しさ」のある授業像について

本研究で育てたい児童の姿を次の3点からとらえることにした。

(1) **自分の考えをもって課題解決にのぞんでいる子**

- ①たとえ間違っているかもしれない考えであっても、自分の考えをもつことに過剰な不
安を感じないで安心して学習にのぞんでいる。
- ②完成されたものでなくても自分の考えをもつことで、意欲をもって課題解決にのぞん
でいる。

(2) **考えを伝え合い、生かしている子**

- ①自分の考えを伝え（受け止めてもらい）、それに自信をもって、さらに意欲をもって
考えを深めたり広げたりしている。
- ②友達の考えをきちんと受け止め、自分の考えに取り入れたり課題解決に生かそうとし
たりしている。

(3) **学ぶ楽しさを感じ、主体的に取り組んでいる子**

- ①「わかる」「できる」喜び（「わからない」「できない」と喜べない）とともに、「こ
こまで考えられた」といった自分の考えをもつことに楽しさを感じている。

- ②友達や教師と考えを伝え合ったり発表したり聞いたりすることを楽しさを感じている。
- ③自分や友達の考えが役に立ったりそれらを活用して解決したりする喜びを感じている。
- ④「なるほど」「おもしろい」「便利だ」と声があがるような算数のよさにふれたり、よりよく生かせるものを検討したりする活動を楽しさを感じている。

本研究主題における「学ぶ楽しさ」を味わえる授業を次のようなものとしてとらえたい。一つめに、「わかる」「できる」喜びがあり、「考える」「自分の考えをもつ」ことにより楽しさが感じられる授業である。既習事項や友達・教師との交流などから、解決方法や数理的な処理のよさや友達の考えが「わかる」こと、それぞれの考えが役に立つ喜び、それらを活用して解決する「できる」喜びをもたせることとともに、その過程において、自分の考えをもつことが重要であると考え。

二つめに、自分の考えをもって主体的に課題解決に取り組む活動、考えを伝え合ったり発表したり聞いたりする活動（学び）が楽しく感じられる授業である。

三つめに、考えの中から算数のよさを感じたり、課題解決に生かせるもの・よりよく生かせるものを吟味したりする活動（学び）そのものが楽しく感じられる授業である。

少人数指導（TT・コース別学習）のよさを生かしてこのような「学ぶ楽しさ」を味わえる授業を構築していきたいと考えている。

3 研究主題にせまるための重点・手だて

(1) **個に応じた指導体制の充実**

①少人数指導（TT・コース別学習）の実施と指導形態の工夫

- 児童がより安心して学習できる雰囲気やルールをつくるなど、少人数指導の利点を生かすようにする。
- 個に応じた学習としてチームティーチングやコース別学習をより効果的に進める。
- より一層の基礎・基本の定着と知識・技能の習得を図る。

②打ち合わせの確保

- TT担当・少人数指導担当を含めた学年会を実施し、共通理解を図る。
(単元の流れや指導形態、児童への支援、準備、指導者の分担・役割等について)
- 打ち合わせの時間的な補完及び徹底のため、単元シートを作成する。

③単元ファイルの保存

- 実践した結果が次年度以降に活用できるように、学年別・単元別に単元ファイルとして保存する。(単元シート、レディネステスト、習熟プリント等)

(2) **課題提示の工夫**

①児童に実感・必要感をもたせる課題・問題の工夫

○児童が解決したい、追究したいと思うように課題・問題を工夫する。

○児童にとって生活に結び付くような身近な課題・問題を工夫する。

②多様な考えがもてる課題・問題の工夫

○解は一つでも解法は複数あるような算数のよさと学び合いのよさが感じられるような課題・問題を工夫する。

③提示の仕方の工夫

○既習事項を確認する，具体物を使う，場面絵を使う，問題場面を劇にする，簡単な数値に変えた問題から始める等，提示の仕方を工夫する。

(3) **考えをもたせる工夫**

①算数的活動の工夫

○基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることを助けるためだけでなく，見通しや考えをもてるようにするため，具体物や図形を操作したりきまりを見つけたりするなどの活動を取り入れる。

○計算の仕方や面積の求め方等の考えを表現したり説明したりする活動を取り入れる。

○児童にとっては活動的・主体的な学習にするための，教師にとっては児童一人一人の考えや状況を見取り認める機会がもてるようにするための活動を取り入れる。(実際に測定したり表やグラフを用いたりするなどの活動)

②教材・教具の活用，整備

○具体物・半具体物を積極的に活用できるようにする。

○教材・準備物を単元シートに位置付ける。

○習熟を図るプリントや授業で使うワークシート，提示資料を少人数指導担当者を交えた学年体制で準備する。

○算数資料室の整理，不足している教材・教具の洗い出しをして，購入したり自作したりする。

③既習事項の活用

○既習事項の活用を図った見通しのもたせ方を工夫する。

○既習事項を活用する場を位置付け，既習の内容と関連付けられた児童や実際に活用できた児童を賞賛するなどして，活用することの大切さを児童に意識づける。

④発表やつぶやきを生かす工夫

○児童からのつぶやきを積極的に取り上げる。

○児童の考えを板書するなどして，それぞれの考えから課題解決に結び付いていくことを意識させる。

(4) **学習形態の工夫**

①学び合いの場の設定

○少数の児童が発表して多数の児童は聞くだけの活動にできるだけならないように，

ペア（二人組）やグループでの学び合いの場を設定し、全員が活動できるようにする。

○一人一人が主体的に考えを伝え合う、説明し合う、聞き合う場を設定する。

②少人数の特性を生かした学習形態

○落ち着いて集中して学習できるようにする。

○気軽に素直な発言ができるような座席の配置や雰囲気づくりをする。

○T1、T2とも、児童の立場に立った声かけや一人一人の実態に即した支援を行う。

(5) **表現力の育成**

①図、表、言葉を使った表現

○図、表、言葉に表現させ、考えていく過程を重視する。

○図、表、言葉、あるいは式を使って相手に伝えたり考えを表現したりする活動を繰り返し経験させ、そのよさを感じ取らせる。

○わかりやすい説明の仕方の指導をする。

②ノート指導

○「ノートの使い方」マニュアルを発達段階に応じて作成し、ノートの使い方について指導する機会をもつ。

○自分の考えを記録すること、考えを相手にわかるように表現することを意識してノートをかわせるようにする。

(6) **評価の工夫、改善**

①自己評価

○単位時間ごとの確認テスト（わくわくチェック）のふり返りやノートへのまとめや感想を活用し、次時に生かすようにする。

②アンケートの実施と活用

○全校児童を対象に定期的にアンケートを実施し、指導体制や指導方法等の改善に生かす。

○アンケートの結果を学校だよりを通して保護者に公開し、個に応じた学習・少人数指導について保護者に理解してもらうようにする。

③単元シートにおける指導の評価

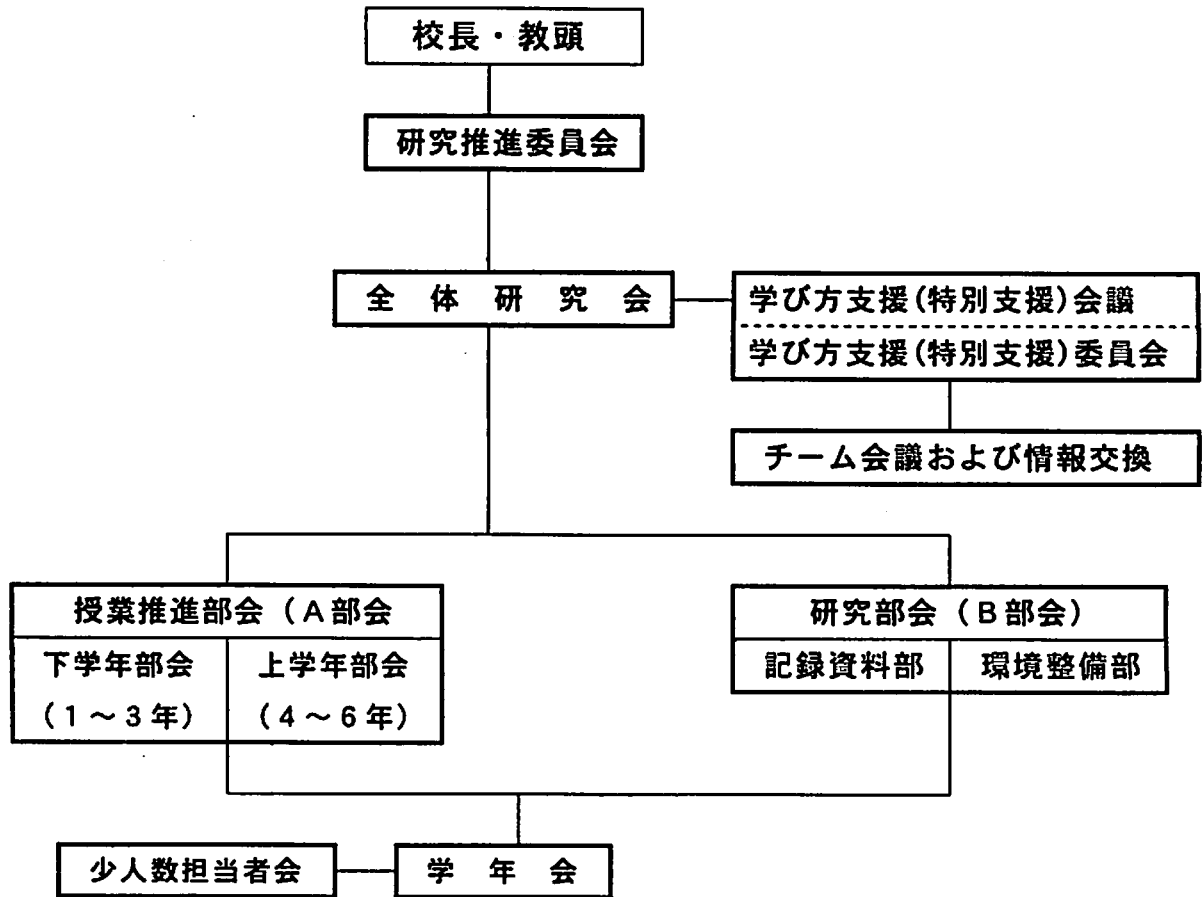
○単元終了後、指導形態や教材、準備等単元の指導全般について評価し、次年度以降の指導に生かすようにする。

④コース別学習における評価

○1単位時間ごとに関心・意欲・態度、思考・判断・表現に関する主な評価規準を設定し、補助簿を作成して評価し、指導に生かす。

○単元に入る前にレディネステストを実施し、コース別学習の指導体制・コース分けの参考にするとともに、その単元での指導に生かす。

4 研究組織



II 研究の全体構想

学校教育目標

自ら学ぶ意欲・自ら考え創造する力を育み、知・徳・体の調和のとれた人間教育に努める。

学校課題

学ぶ楽しさや喜びを感じ、確かな学力を身に付ける子供の育成

研究主題

自ら考え、課題解決に取り組み、学ぶ楽しさを味わえる子供の育成

めざす児童像

- ①自分の考えをもって課題解決にのぞんでいる子 ②考えを伝え合い、生かしている子 ③学ぶ楽しさを感じ、主体的に取り組んでいる子

研究仮説

児童一人一人に考えをもたせる場を設定し、児童の実態に即した支援をすることで、児童は互いに学び合う楽しさを感じながら、主体的に課題を解決することができる。

研究の重点・手だて

- | | | | | | | | | |
|--|--|--|---|---|---|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 自己評価・ アンケートの実施と活用 | <ul style="list-style-type: none">・ ノート指導・ 図、表、言葉を使った表現 | <ul style="list-style-type: none">・ 表現力の育成・ 少数数の特性を生かした学習形態 | <ul style="list-style-type: none">・ 学び合いの場の設定（ペア・グループ学習等）・ 学習形態の工夫・ 発表やつぶやきを生かす工夫 | <ul style="list-style-type: none">・ 既習事項の活用・ 教材・教具の活用、整備 | <ul style="list-style-type: none">・ 算数的活動の工夫・ 考えをもたせる工夫・ 提示の仕方の工夫 | <ul style="list-style-type: none">・ 問題の提示・ 児童に実感・必要感をもたせる課題や多様な考えがもてる | <ul style="list-style-type: none">・ 課題提示の工夫・ 単元ファイルの保存 | <ul style="list-style-type: none">・ 打ち合わせの確保（単元シート）・ 個人に応じた指導体制の充実・ 少人数指導（ＴＴ・コース別学習）の実施と指導形態の工夫 |
|--|--|--|---|---|---|--|---|---|

学び方支援（特別支援教育）の推進

- 児童の実態の把握 ○校内支援体制に基づいた一人一人に応じた意図的・計画的な支援

学年・学級経営の充実

- 一人一人がのびのびと安心して力を発揮できる学年・学級づくり
○一人の人間として大切にされ「存在感・自己実現」の喜びが味わえる児童同士および児童・教師間の関係づくり

Ⅲ おもな実践例

(1) 個に応じた指導体制の充実

第1学年「たしざん」(平成19年度)

ティームティーチングにおける役割を明確にし、T2がA児に関わっているとき、T1は机間指導をしてヒントカードなどで戸惑っている児童の支援をした。



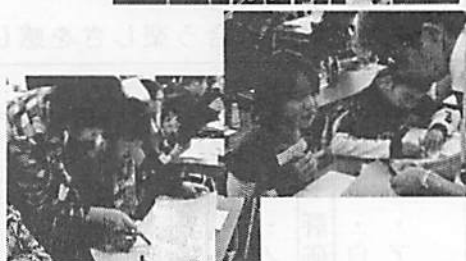
第6学年「体積」(平成20年度)

コース別学習における各コースの特徴を明確にした。じっくりコースでは、既習事項を確かめながら、具体物等を使った算数的活動を多く取り入れるようにした。また、学習への不安がないか、児童の表情等から把握しやすいよう他のコースより人数を少なくし、座席の配置も工夫した。



第5学年「平行四辺形の面積」(平成20年度)

ワクワクコースでは、個に応じて十分支援できるようコース内でTTを取り入れた。児童が集中して学習し課題解決が図れるよう、厚紙の図形を一緒に操作したり言葉をかけたりして支援をした。



(2) 課題提示の工夫

第1学年「3つのかずのたしざん、ひきざん」(平成19年度)

児童が解決したいと思うような課題になるように、場面絵を見せてお話を考えさせた。場面絵を操作しながらリスの増減の数を意識づけた。



第4学年「わり算の筆算(1)」(平成20年度)

ワクワクコースでは、3びきの犬に69本のビーフジャーキーを分けるという設定の課題を提示し、児童の生活につながるものにした。

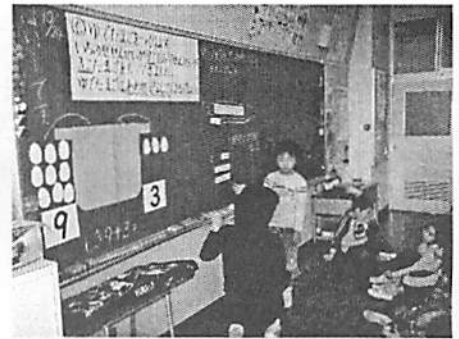
ウキウキコースでは、被除数の十の位と一の位を反対にすると、商の十の位、一の位も反対になること($69 \div 3 = 23$ と $96 \div 3 = 32$)に気付かせる2つの文章問題を提示した。



(3) **考えをもたせる工夫**

第1学年「たしざん」(平成19年度)

考えを表現したり説明したりするための算数的活動を位置付け、 $9 + 3$ の計算の仕方を発表させた。児童を前に集め、友だちの考えを集中して聞くことができるようにし、それぞれの考えのよさを称賛した。



第3学年「重さ」(平成19年度)

全体の重さから入れ物の重さを引けば中の物の重さが求められるという考えに導いたり、その考えをより確かなものにしたるために、実際に物の重さを量り計算する算数的活動を位置付けた。児童がより主体的に活動できるよう様々な物の重さを量るコーナーを設けた。



第3学年「表とぼうグラフ」(平成20年度)

身近なものから自分が調べたい題材を選んで表や棒グラフにまとめ、ポスターとして発表する学習をした。このように学んだことを生活に結び付ける算数的活動を通して、児童は主体的に考えることができた。



第5学年「平行四辺形の面積」(平成20年度)

ウキウキコースでは、一人の児童が平行四辺形の面積を求めるのに必要な補助線を書いた後、別の児童にその続きを考えさせた。友達の考えを想像し自分の考えを説明したいという気持ちがよく表れていた。



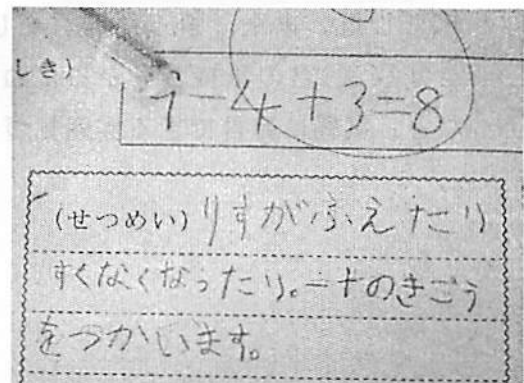
[考えを書く活動の位置付け]

(ノート・ワークシート)

第1学年

「3つのかずのたしざん、ひきざん」

(平成19年度)



色紙が80まいあります。
 1人に20まいずつ分けると、
 何人に分けられるでしょうか。

① $80 \div 20 = 4$ 答え4人
 ② 10をもちに10を考えると...
 $80 \div 20 = 4$

③ $100 \div 100 = 1$ 答え3
 ④ $400 \div 300 = 1$ 答え3
 ⑤ $9 \div 3 = 3$
 ⑥ $80 \div 40 = 2$
 ⑦ $180 \div 60 = 3$
 ⑧ $400 \div 50 = 8$
 ⑨ $600 \div 200 = 3$

体積7.8Lのスープを3個のなべに等分に分けると、何Lずつ分けられますか。

スープの量 7.8 (L)
 なべの数 3 (個)
 式 $7.8 \div 3 = 2.6$
 答え 2.6 Lずつに分けられます。

① $7.8 \div 3 = 2.6$
 ② $0.8 \rightarrow 0.8 + 1 = 1.8$
 $1.8 \div 3 = 0.6$
 $2 + 0.6 = 2.6$

Excellent!

次のような形の体積の求め方を考えよう。

① $4 \times 4 \times 5 = 80$
 ② $4 \times 6 \times 3 = 72$
 合計 $80 + 72 = 152$

答えは 152 cm³

第4学年

「わり算の筆算(1)」

(平成20年度)

第5学年

「小数と整数のかけ算、わり算」

(平成20年度)

第6学年

「体積」

(平成20年度)

(4) 学習形態の工夫

第6学年「体積」(平成20年度)

しっかりコースでは、複合図形の立体の体積を求めた方法や結果を二人組か三人組で発表し合った。全員が話す・聞くの活動をする中で、別の考えに触れたり方法や理由を頭の中で繰り返すことで定着が図られたりした。



第4学年「わり算の筆算(1)」(平成20年度)

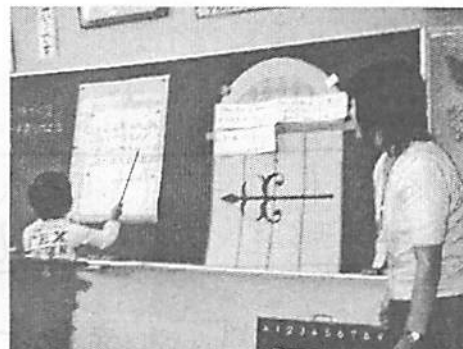
ウキウキコースでは、2位数÷1位数の計算の仕方を自分なりに考え、それを説明する活動を重視した。そのため、発言するときも聞くときも、友だちの方を向いてできるよう「コ」の字型の座席にした。また、誤った発言をした児童がいたとき、「〇〇君の気持ち分かるよね。」と声をかけるなど、気軽に発言できる雰囲気づくりに努めた。



(5) **表現力の育成**

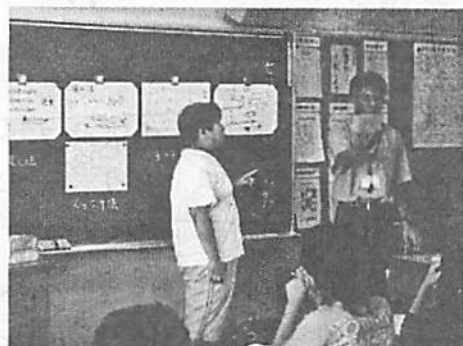
第2学年「かけ算」(平成19年度)

九九表を見て気付いたことをノートに言葉で書いてから発表し合った。児童の言葉を生かしながら発表をまとめてカードに書き、「魔法の国の扉」に貼っていった。



第6学年「体積」(平成20年度)

はりきりコースでは、自分で考えた複合図形の立体の体積の求め方を図や式を用いてノートやホワイトボードに書いた。二人組で発表し合ってから、全体での発表をした。いろいろな考えがたくさん出され、よく伝え合うことができた。



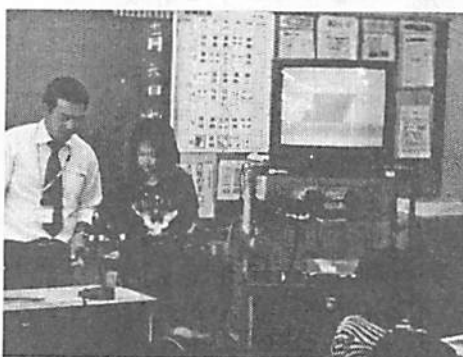
第2学年「かけ算」(平成20年度)

4人乗りの観覧車が1台増えると4人ずつ増えることなど、4の段の九九の構成について二人組で発表し合ってから、他の児童の発表を聞いた。つぶやきを取り上げることも含め、児童の言葉で理解が深まり学び合うことができた。



第5学年「平行四辺形の面積」(平成20年度)

ドキドキコースでは、平行四辺形の面積を具体物を用いながら自分の考えた方法で求めた。発表の経験を全員にさせ、全体での発表もしやすいよう隣の児童と発表し合った。その後、OHC(実物投影機)を使い、実際の形を操作しながら発表した。多様な考えがあることに触れることができた。



児童のノート (例)

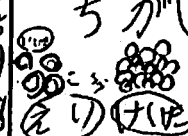
2 年

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

7/14 ストローでいろいろ
(月)な形をつくりましょ。う。

P56

7/5 ちがいを考えて

(X) 

P58

えりさんのトマトは
何にあるでしょ。うか。

しき $4 + 15 = 19$

① けいたさんのトマ
トよりえりさんのト
マトは4より多いから
4 + 15 = 19だから19
です。答え19

3 年

① 276
 1424
 1424

② 485
 -397
 888

4カぞえるのがたのしがつた。

表とばうグラフ
次むかんは3つ!

② じゅう用車は、トラフより何
台多いですか。
(1台)

理由

| | |
|-------|---|
| ぼうグラフ | 8 |
| いいてこ | 7 |
| うが | 6 |
| いあって | 5 |
| か | 4 |
| うで | 3 |
| ま | 2 |
| か | 1 |

ぼうグラフの
いいてこは3と
がし。
こ見
だけでうえが
わかる。数ち
がいをあがる。
いいてこをTとこん
みたら!

乗ト
用ラッ
車

5 年

計算のままりと関係


☆ 5まいのふうとうに80円切手と30円切
手を1まいずつはる。
切手代は合わせていくら?

(1) $80 + 30 = 110$
 $110 \times 5 = 550$

理由

$80 + 30$ でまずたして110になる。
その110をふうとうの数の5をかけた。
 $110 \times 5 = 550$ 円になる。

ふうとう



$110 + 110 + 110 + 110 + 110 = 550$

$110 \times 5 = 550$

$(80 + 30) \times 5 = 550$

$80 \times 5 + 30 \times 5 = 550$

6 年

① 式 $6 \times 10 \times 4 = 240$
 $6 \times 5 \times 4 = 120$
 $240 + 120 = 360$ A. 360 cm³

考え方
まず、横に半分に分ける。6×10×4で下
の部分の大きさを求める。次に6×5×4で上の部分
の大きさを求める。そして、下の部分の大きさと上
の部分の大きさをたすと求められる。

P.50

(1) ① 式 $12 \times 15 \times 5 = 900$
 $6 \times 7 \times 5 = 210$
 $900 - 210 = 690$ A. 690 cm³

② 式 $10 \times 8 \times 3 = 240$
 $2 \times 2 \times 3 = 12$
 $240 - 12 = 228$ A. 228 cm³

③ 式 $4 \times 3 \times 2 = 24$
 $4 \times 4 \times 3 = 48$
 $24 + 48 = 72$ A. 72 cm³

④ 式 $4 \times 7 \times 5 = 140$
 $4 \times 2 \times 2 = 16$
 $140 - 16 = 124$ A. 124 cm³

(6) 評価の工夫、改善

上学年（4～6年）では、単位時間ごとに確認テスト（わくわくチェック）を実施している。

数分で解ける問題の他に、自己評価や感想を記入する欄がある。児童は、それをファイルにつづっている。



ゆる気ワクワクチェック NO. 2 2 / 9
4-1 5組

三角形

・5cmの辺が2つある三角形をかきましょう。

◇ 今日の学習をふり返ろう。

よくできた できた できなかった
楽しかった まあまあ 楽しなかった

今日の感想 >

コンパスで円を描いた
三角形がまっすぐかいて
すげーと思いました

コンパスは
ベリリだね

ゆる気ワクワクチェック No. 9 9 / 12
class【1】 Name ()

体積

下のような形の体積を求めましょう。

式 $3 \times 3 \times 4 = 36$
 $3 \times 8 \times 1 = 24$
 $36 + 24 = 60$

すばらしい
説明でした

答え 60 (立方)

◇ 今日の学習をふり返ろう。

よくできた できた できなかった
楽しかった まあまあ 楽しなかった

今日の感想 >

今日は自分で作った形の体積が
説明できてるし、

IV 成果と課題

1 成果

(1) 児童の変容

- ① 授業で自分の考えを近くの友達に伝えたり一緒に考えたりと、自主的に取り組む児童が増えてきた。
- ② 自分の考えをもったりそれをノートに絵や図でまとめたりすることに慣れてきた。
- ③ 自分の考えを発表したり友達の考えを聞いたり比べたりする楽しさを感じられるようになってきた。
- ④ 授業に対する意欲が高まり、自分の力で課題に取り組んだり学んだりする姿が見られるようになった。
- ⑤ 学習内容を理解する児童が増え、「わかった」という声が多くなった。
- ⑥ 見やすいノートづくりに心がける児童が増えてきた。
- ⑦ 落ち着いて学習に取り組めるようになってきた。
- ⑧ 算数の授業後に自分から教師に質問したり自分で作った問題を聞かせたりする児童、感謝の言葉を言う児童が見られるようになった。

(2) 教師の変容

- ① 考えを図や絵などで表現させるように意識して指導したり、そのための時間を確保したりするようになった。
- ② 教師主導でなく、児童の考えや実態を重視して授業を組み立てるようになった。
- ③ 学び合いの時間を確保するなど、学び合いを重視するようになった。
- ④ 児童の関心・意欲を高め、考えを引き出せる課題の工夫、課題提示・導入の仕方の工夫をするようになってきた。
- ⑤ 授業の中で、算数的活動を多く取り入れようと工夫するようになった。
- ⑥ 複数の教師で児童に関わるので、児童理解が深まり、児童の実態に合った指導を心がけるようになった。
- ⑦ 少人数指導で児童個々のつまずきにできるだけ細かく丁寧に対応できるようになってきた。

(3) 保護者の声から

- ① 分からないことが聞けるTTによる学習に満足している。
- ② コース別学習になり、算数に対しての意欲が増し、好きになったようだ。
- ③ 自分から発表できるようになり喜んでいる。

2 今後の課題

- ① 自分の考えがさらに分かるように表現できる指導を工夫していきたい。
- ② 自分の考えと比べたり考えを深めたりする児童の育成を図っていきたい。
- ③ 各単元における算数的活動や活用する場を明確に位置づけ、工夫していきたい。
- ④ TTの効果的な指導のあり方を今後も工夫していきたい。コース別学習においては教師間の密な連絡を行い、指導の仕方や児童への配慮等共通理解を一層図っていく必要がある。

【研究同人】

【平成20年度】

| | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 影山 憲一 | 相川 武史 | 松村 光悦 | 黒岩 悦子 | 岡田 玲子 | 八木 隆 |
| 稲葉 和枝 | 原 あや子 | 吉澤 恵子 | 大竹真佐美 | 川崎 等 | 小島 恭子 |
| 浅海 紀幸 | 神林 孝文 | 柴崎 直美 | 北村美奈子 | 眞尾 恵子 | 一瀬 清美 |
| 藤生 拓也 | 井ノ口有香 | 江田 貴史 | 山田 恵子 | 岩崎 郁夫 | 新井美由紀 |
| 永嶋亜紀子 | 植竹 康子 | 大島 京子 | 山崎 陽子 | 上野 浩美 | 近藤 兼安 |
| 佐藤 實 | | | | | |

【平成19年度】

| | | | | | |
|-------|-------|------|------|-------|-------|
| 竹田 陽平 | 山岸 智子 | 相子 要 | 大類 仁 | 岡崎 佳子 | 清水 愛子 |
| 森 富雄 | | | | | |

評

2004年に発表されたPISAの調査によると、算数に対して、「興味がある」、「楽しい」と思う日本の子どもの割合が平均より低いという実態が明らかになりました。また、全国学力・学習状況調査の結果からは、無回答であったり、学んだことを活用する問題に課題があるなどの問題点が見えてきました。そのため新学習指導要領では次の4点が重要事項として取り上げられました。①算数的活動を一層充実させること。②基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けること。③数学的な思考力・表現力を育てること。④学ぶ意欲を高めること、です。

小俣小学校では、学校課題「学ぶ楽しさや喜びを感じ、確かな学力を身に付ける子供の育成」を解決するために、研究主題「自ら考え、課題解決に取り組み、学ぶ楽しさを味わえる子供の育成」を設定し、算数科を中心に実践的研究を積み重ねてこられました。特色として、次の2点を取り上げたいと思います。

1点目は、仮説「児童一人一人に考えをもたせる場を設定し、児童の実態に即した支援をすることで、児童は互いに学び合う楽しさを感じながら、主体的に課題を解決することができる。」を立て、深い分析のもと、手だてをじっくりと練り合い、指導法を確立した点です。

2点目は、児童の実態等の根底部分をしっかりと押さえ、かつ、新学習指導要領を見据えて取り組んでいる点です。具体的には算数的活動の工夫や積極的な導入、そして数学的手法（言葉、数、式、図、表、グラフなど）を積極的に利用し、表現力の育成等を図り、着実に児童に浸透し、身に付けさせているところであります。学習形態では、ペア学習やグループ学習で、一人一人が主体的に考えを伝え合ったり、説明し合ったりする活動を多く取り入れることにより、「学び合いを育てる学級経営」につなげています。

小俣小学校の研究は、今後、本市における算数教育の推進において、大いに示唆を与えるものであります。

ご多忙の中、本市学校教育の充実のため、寄稿いただきましたことに深く感謝申し上げます、評とさせていただきます。